



難聴スタッフが活躍するインクルーシブファッションストア



「OFF」は、あらゆる境界線を越えていくことを意味します。
ファッションを通じて誰もが自分らしくいられることに寄り添いたい。
オフストアを通じて、多様な人と人がつながり
サステナブルなファッションを、ともに「探し、見つけ、楽しむ」。
私たちはファッションのもたらす無限の可能性と力を信じています。
障がいの有無、年齢、ジェンダーにかかわらず、あらゆる境界を越えて
お客さま・スタッフとともに、ワクワクと循環の輪を広げていきます。

VOICE

「オフストアエスパル山形店」誰もが自分らしく輝けるインクルーシブな店舗へ

特例子会社WeOurが運営する「オフストア」は、アンドエスティHDグループのサンプル商品やシーズンアウト品をリーズナブルな価格で提供し、廃棄することなく最後までお客さまの手にお届けすることを目指しています。
エスパル山形店は難聴のスタッフが店舗業務に従事しており、働く人はもちろん、そこを訪れるお客さまにとっても様々な工夫が施されたインクルーシブな店舗です。

宮川：オープンに当たりスタッフ全員で研修に臨み、接客の基礎を一から学びました。接客未経験者が多く当初は苦戦しましたが、マネジャーや他店舗の店長にサポートしてもらいながら日々の運営を行っています。

我彦：私は聴覚に障がいがあり、難聴を示すネーム札をつけています。接客時には音声で文字起こしスマートフォンアプリを駆使することで、お客さまと円滑なコミュニケーションを取ることができます。声が聞き取りにくいこともありますが、近くにいるスタッフがフォローしてくれるので安心して接客ができています。

宮川：コミュニケーションツールの活用により、働きやすい環境が整備されていると感じます。例えば、レジ前にある「指差しボード」には、and STの

アプリ登録方法など必要なお案内事項がまとめてあります。このようなツールにより安心してお客さまと接することができ、お客さまからも分かりやすいと好評をいただいています。

我彦：「指差しボード」は、オープンに向けて店舗スタッフ全員で話し合い作成しました。スタッフ間で互いの特性や抱える不安を共有し理解すること、日々の挨拶などコミュニケーションを大切にすることで、サポートし合える環境や関係性の構築につながっています。

宮川：オープンしてもうすぐ1年ですが、これからも



地域のお客さま、従業員にとって心地の良い店舗であり続けたいです。そのためには誰もが働きやすい環境をつくり、スタッフと意見を交わしながら、今やるべきことに一つずつ向き合っていきます。

我彦：私も「また行きたい」と思っていただけの店舗であり続けたいです。お客さまの期待に応えられるようスキルアップし、安心してお買い物を楽しめる空間を提供していきます。そして、多様な働き方を実現するモデル店舗として、インクルーシブな社会の実現に向けて、ファッションを楽しみながらワクワクと共感の輪を広げていけたら嬉しいです。



スタッフ 我彦 美沙希
店長 宮川 峻平